

農園便り 12月号

(132号)

2023/12/01

文責 筒口典康



11/23 北風を避ける プチプチビニールシート利用 白菜・キャベツ・ブロッコリー・カキナ

栽培放棄された方の耕区に防草シートが張られる。しばらくして、園内の通路にもシートが敷きつめられた。2024年の準備が始まった。

練馬区の区民農園、都市農業課に来年の耕作希望届をだす。

控えの書類も送ってしまいまして、迷惑をかけてしまった。耕作者になれば、また2年頑張ることになる。

関町南3丁目農園33区は、ネギやニンニクを作られていた方が、2年。井の頭動物園で敷き藁などを入手して使うかた、2年。して、私が2年。計6年。ほぼ完全有機栽培が続いている。

せめて農園使用期間が4年であればと、思い続けて、20年近く経っている。杉並区の農園は3年である。使用期間が長ければ長いほど、有機栽培で作られる方が増えてくると思います。年々良くなる畑を作る方も増えてくる。

『畑をやっている、できが年々悪くなっていくのは何故なのか?』、化成肥料8・8・8をお使いの方が言う。『農薬抜きでは、作れないヨ!』。と、言う。

多くの方は、「苦土石灰」「購入堆肥」「化成肥料」等を使っている栽培のようである。化成8・8・8。中には、12・12・12。14・14・14などの高度化成を使われている。高度化成を使われる方はかなりの専門家だ。

NHK「野菜の時間」の勧める「慣行農法」＝「現代農法」だ。一般農家さんの栽培の仕方でもある。そこでは、「農薬」も必要になってきます。

私は、あえて、「無農薬」で「有機肥」での栽培で、「元気野菜」「健康野菜」を目指しております…。「自然栽培」に近づけることも…。 「草」も「虫」

も「菌・細菌」…も、あって良い。 「自然の大循環」に期待しましょう。

とにかく、おいしくて、安心安全な無農薬野菜を作っていこうではありませんか。 それには、畑の使用期間の事です、2年では短すぎます、…。 せめて、3年…。 4～5年であれば、なお良いと思う次第であります。

練馬区の農園で、有機無農薬で野菜を作るには、どのようにすれば良いのか、色々と試しています。

3丁目農園は、適期適作の優れている方がおられる。 5mm方眼紙をお使いになって、栽培の図式化。名人である。 「スイカ」名人。 「ぐうだら」と言う省エネ派の名人。 関町南3丁目農園は、多士済々であります。

今は、小松菜、白菜、カキナをいただいています。(12/1) 支柱に這いあがったアピオス、自然薯、丸い芋の「ツクネ芋」、「エアポテト」。…目下収穫中。 23年度の使用期間の修了が近い。 片付けに入る。 土を深く掘る。 それにしても、自然薯掘りには苦勞しました。

2年間で、全体が周りの畑よりも大部盛り上がっている。 来年も同じ33区が当たればよいのですがね。 なかなか難しい話しでしょう。 次の方が良くなった畑をお使いになって、…喜んでくれるなら、それでもいいといたしましょう…。 有機栽培を続けていると、土が盛り上がってくる。

「ダイコン」「ネギ」「ハウレン草」「春菊」「レタス」…、前作の野菜の処置の遅れで、植えていません。 適期エラー。悪い癖です。 ネギ・ニラ(ユリ科)類は、まだまだ除草剤事件の影響でしょうか、機嫌が悪い。 「ダイコン」は11月号で、報告しました。

「春菊」「レタス」は、害虫防止に混作すると良いのですが、8月に蒔きませんでしたので出遅れ。



11/18 水槽を片付け始める 大きなコンテナの中に小鉢を入れて、草を栽培する。

畑の水槽

「イネ」を植えてみました。お正月のお飾りの稲穂の「粃」を使いました。ミニ温室で、加温して発芽させる。 1～2合採れればいかなと…。 結

果は、盃一杯で終わる。 稲は、スズメの被害にも遭いました。 「クワイ」や「水草」も一鉢ずつ置きました。

「水槽」は、コンテナ鉢に栓をして。 植物達を、二回り小さな鉢に植えました…。 片付けをする時に重くて手に負えませんから、工夫しました。

コンテナ鉢そのものに植え込まないで小鉢に植えます。 そうしますと小鉢をどかして、大鉢の「水」を抜く。 植物を植えた小鉢は持てるので、自分の体力で間に合います。 水槽に「メダカ」を入れる。 トンボがやってきて「ヤゴ」も。「アメンボウ」も飛来する。 小さなビオトープなのであります。

3丁目農園は、都立善福寺公園が近くにあるせいでしょうか、鳥たちがやってくる。 虫たちも多い。

さらに、千川上水が近くに流れていて、まだまだ自然が沢山ある。 昨年、2メートル程の大蛇「アオダイショウ」が水面を走る。 泳ぐ。 驚く。

川岸の草取りは、程々に。 しっかり刈り取ってしまわないように願いたいのですが…。 如何なものでしょう？

小さなビオトープは、「有機無農薬栽培」の味方。 多くの生物たちが水飲み場が集まってくる。 畑には、「糠」を撒いて、身近に手に入る善玉菌(麹菌・納豆菌・乳酸菌・麹菌…)を撒く。 自然循環を取り込むと言う仕掛けであります。

クロタラリア

数年前に、長男が勤務先の知人(?)から、クロタの種子をもらい、私の手元に届く。 「ネコブセンチュウ」を攻撃すると言うので蒔いてみました。 ダイコンのブツブツが無くなり美肌ダイコンが採れました…。 「有効！」なのであります。

クロタラリアは、アフリカに産するマメ科の雑草で、「緑肥植物」として、導入された。 茎葉に養分が多く含まれているので「緑肥」に使う。 根は、深くに達し「根耕植物」として、最適！。 冬の寒さで枯死してしまうので雑草にはならない。 秋に落下した種から良く発芽します。 手で抜けば、簡単に始末できます。 タキイ種苗、サカタ種苗でも用意されている。

日本の植物では、「クララ」(マメ科)が使えるが、耐寒性があり「雑草」になる。「レンゲ」「クロタラリア」「カラスノエンドウ」「萩」「ナンキンマメ」(マメ科)などの茎葉部は、イネ科植物とともに「緑肥植物」として使う。

山桃 柿 カリン 柑橘 … など

昨年、木々たちが 2 階の屋根を越して御近所迷惑！。 そこで、上階の窓手で切る。 で、3年は、花が咲かないであろう。 復活を待つ。

「柿」は、去年「実」を付け過ぎました。 隔年現象が激しく出まして、ダメ。 今年は、4ついただきました。 「カリン」は、一つも成りませんでした。

「本柚子」「小柚子」「蜜柑」「スプリングアーリー」「橙」「文旦」は、OK。 狭小な庭に、盆栽植状。 色々植えました。 これまでに色々枯らしてしまいました。



1/17 野菜達の残渣を細かく切って、「糠」を振る、積む。 半熟になった物をマルチに使う。

敗戦の年、8月下順、神田飯田町から練馬に荷馬車にひかれて、引っ越してきた。武蔵関駅裏の2階建ての2軒長屋に住む。 石神井川の直ぐ北。

同級生の家の庭になる「柿」「栗」「夏蜜柑」…。 美味しそうであった。 横目で見ているだけ。「ふかし芋」も、うまそうであった。 <俺は、生涯をかけて一年中、年中、果実を食べるぞ !!! >と、決意した。(ふ・ふ・ふ…) 笑う。 最後に、熱帯小果樹「ジャボチカバ」「ミラクルフルーツ」の鉢作りで、実現したのである。 60年、かかりました。

間違いなく「戦災孤児」になっていたかと思うと、今は幸せです。 翌年の夏(2年生)、石神井川に「蛍」が舞う。「集団疎開」の疲れからか、連続して生死をさまよった。 今の元気は、信じられない。 ひもじい思いをしました。

12月の 33区の野菜達



タキイ種苗、国華園から、春のカatalogが届く。お休み前にながめます。バラや、草花は、もう止めています。 野菜、果樹、ハーブ、栽培工具、用土などを何度も何度も繰り返し読んで、楽しんでおります。 電動モーター付きのリヤカーが欲しいのだが女房の理解はでないだろう。 止めておこう。 T、